



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL (03) 3270-2701
FAX (03) 3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/10/11
SDS整理番号 16380950

製品等のコード : 1638-0950、1638-0960
製品等の名称 : N/10(0.1mol/L) 水酸化カリウム溶液
推奨用途 : 分析試薬 (容量分析用)
使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



K—OH

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分に該当しない
自然発火性液体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報
強い眼刺激

注意書き

【安全対策】

取扱い後は、よく手を洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物 (0.56%水酸化カリウム水溶液)
化学名、製品名 : N/10(0.1mol/L)水酸化カリウム溶液
(英名) N/10(0.1mol/L)Potassium hydroxide solution
成分及び含有量 : 水酸化カリウム、0.56w/w% (0.56w/v%)

化学式又は構造式	: KOH、 HKO、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	: 56.11
官報公示整理番号	: (1)-369
化審法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	: 1310-58-3
EC No.	: 215-181-3
危険有害性成分	: 水酸化カリウム

4. 応急措置

吸入した場合	: 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに、皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	: 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: この製品自体は燃焼しない。 周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	: 棒状放水(本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。)
特有の危険有害性	: 火災中に刺激性又は毒性のヒュームを発生する可能性がある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	: 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	: 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	: 漏洩物を乾燥砂、ウエスなどで吸収し、密閉できる空容器に回収し、後で酸で中和して排水処分する。 後処理として、漏洩区域は大量の水で洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	: 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	: 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
局所排気・全体換気	: 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	: すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 ミスト、蒸気、気体(ガス)を吸入しない。

	腐食性があるので、皮膚につけたり、眼に入れない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 容器をよく振った後、開封して使用する。 開封した場合は、直ちに使用する。 使用した規定液は、元の容器に戻さない(規定濃度が変化するおそれがあるため)。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 日光や高温を避けて保管する。 容器を密閉し冷暗所に保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 金属(亜鉛、アルミニウム、スズ、鉛)、酸
容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度 (ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH)	: 生物学的ばく露指標): 最大許容濃度 2mg/m ³ (KOHとして) TLV-STEL Ceiling 2mg/m ³ (KOHとして)
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワー を設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用 する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 液体
色	: 無色澄明
臭い	: 無臭
pH	: 強アルカリ性 (pH > 13)
融点	: 0
凝固点	: データなし
沸点	: 100
引火点	: データなし
可燃性	: 不燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度(空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 1.00 (20/20)
溶解度	: 水、メタノール、エタノールの混和。
オクタノール/水分係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
引火性液体	: 本品は不燃性であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性液体	: 本品は不燃性であることから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 本品は水溶液で不燃性であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水溶液で安定である(水との混触で可燃性ガスの発生がない) ことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

- ： 通常の取扱条件において安定である。
 空気中の二酸化炭素を吸収する。
 容量分析のファクターが変動しないように密栓する。
- 危険有害反応可能性 : 酸と混触すると反応する。
 亜鉛、アルミニウム、スズ、鉛などの金属に対して腐食性を示し、
 引火性/爆発性の水素ガスを生成する。
 アンモニウム塩と反応してアンモニアを生成し、火災の危険をもたらす。
 リン化合物と反応し、有毒・可燃性ガス(リン化水素)を発生する。
 アクリル樹脂、ポリカーボネート、シリコンゴム、フッ素ゴムを侵す
 ことがある。
- 避けるべき条件 : 日光、高温、空気(二酸化炭素)
 混触危険物質 : 酸、金属類
 危険有害な分解生成物 : 特になし

11. 有害性情報

【本製品のデータがないため、水酸化カリウムと水の混合物として、GHS分類した。】

- 急性毒性 : 経口 区分に該当しない。
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。
 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 区分 2 A とした
 強い眼刺激 (区分 2A)

- 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露) : 区分に該当しない。

参考【水酸化カリウム [CAS No. 1310-58-3] のデータ】

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 284mg/kg
 飲み込むと有毒 (経口) (区分 3)
 経皮 分類できない。
 吸入 (蒸気) 分類できない。
 吸入 (粉じん) 分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギによる試験で腐食性 (SIDS (2001))、ヒトに対して腐食性 (SIDS
 (2001))の記載があり、国連分類クラス 8、11 に分類されていることより
 区分 1 B に分類した。
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分 1B)
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : ヒトに対して不可逆な障害があり (SIDS (2001))、ウサギの試験で腐食性
 (SIDS (2001))の記載あり、皮膚腐食性/刺激性のGHS 分類が区分 1Bで
 あることより、区分 1 に分類した。
 重篤な眼の損傷 (区分 1)
- 呼吸器感作性 : 分類できない。
 皮膚感作性 : 区分に該当しない。
 モルモットの試験で陰性 (SIDS (2001))の記載があり、ヒトの報告はない
 が、カリウムイオンとヒドロキシドイオンも生体内に存在するので皮膚
 感作性の原因とはならない (SIDS (2001)) の記載より、区分に該当しない
 とした。
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
 水酸化カリウムの in vitro 試験はエームズ試験で陰性 (SIDS (2001)) の
 データはある。
- 発がん性 : 分類できない。
 知見データがなく、産衛学会や IARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSАの国際
 評価機関の報告がないため、分類できないとした。
- 生殖毒性 : 分類できない。
 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露) : 粉塵又はミストを吸入暴露すると鼻、気管気管支に熱傷等の障害を起し、
 肺水腫にまで至る (SIDS (2001))、(ACGIH (2001))、(PATTY (5th, 2001))の
 記載により、区分 1 (呼吸器系) に分類した。
 呼吸器系の障害 (区分 1)
- 特定標的臓器毒性
 (反復ばく露) : 分類できない。
 誤えん有害性 : 吸引により肺炎で死に至る (ACGIH (2001))の記載より、区分 1 に
 分類した。
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ (区分 1)

12. 環境影響情報

生態毒性
 水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。
 水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない。
 残留性・分解性 : データなし
 生物蓄積性 : データなし
 土壤中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考【水酸化カリウム〔CAS No.1310-58-3〕のデータ】

生態毒性
 水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。
 水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない。
 残留性・分解性 : データなし
 生物蓄積性 : データなし
 土壤中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本品は、特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 (参考)中和法(少量の場合)
 廃液を攪拌しながら、発熱に注意して希酸(希塩酸、希硫酸など)を徐々に添加し、pHを中性にした後、大量の水と一緒に排水処分する。
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 154

国際規制

海上規制情報(IMDGコードの規定に従う)
 UN No. : 1814
 Proper Shipping Name : POTASSIUM HYDROXIDE, SOLUTION
 Class : 8(腐食性物質)
 Sub risk : -
 Packing Group : III
 Marine Pollutant : No(非該当)
 Limited Quantity : 5L
 航空規制情報(ICA0-TI/IATA-DGRの規定に従う)
 UN No. : 1814
 Proper Shipping Name : Potassium hydroxide, solution
 Class : 8(腐食性物質)
 Sub risk : -
 Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報(特段の規制なし)
 海上規制情報(船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)
 国連番号 : 1814
 品名 : 水酸化カリウム(水溶液)

クラス	: 8 (腐食性物質)
副次危険	: -
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	: Y (水酸化カリウム溶液)
少量危険物許容量	: 5L
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)	
国連番号	: 1814
品名	: 水酸化カリウム (水溶液)
クラス	: 8 (腐食性物質)
副次危険	: -
等級	: III
少量輸送許容物件	: 1L
許容量	: 1L
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 非該当「水酸化カリウムを1%未満の物は除外」
毒物及び劇物取締法	: 非該当「水酸化カリウムを5%以下の物は除外」、包装等級
消防法	: 非該当
化学物質排出管理促進法 (PRTR法)	: 非該当〔2023年(R5年)4月1日施行にも非該当〕
船舶安全法	: 腐食性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
水質汚濁防止法	: 指定物質 (施行令第三条第三項) 「水酸化カリウム」
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 3822.00 第38類 (各種の化学工業生産品) ・輸出統計番号 (2023年4月版): 3822.00-000 「理化学用の調製試薬」 ・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 3822.00-000 「理化学用の調製試薬」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	: 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
	: 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
	: 化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
	: 化学大辞典	共同出版
	: 安衛法化学物質	化学工業日報社
	: 産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
	: 化学物質安全性データブック	オーム社
	: 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
	: 化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
	: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
	: GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
	: GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。